

世界遺産を 見に行ってみよう!



世界遺産を実際に見てみると、本を読むだけではわからないことに気付くことがあります。世界遺産そのものだけでなく、まわりの景色などをふくめて、それらすべてが「世界のたからもの」であり、大事に守っていく必要があるものです。

見学のマナー

世界遺産を絶対にきずつけないこと。

世界遺産は世界のたからものです。きずをつけたり、落書きなどをしないようにしましょう。

その場所のルールを守ること。

世界遺産を守るためのいろいろなルールを守りましょう。

決められた場所を歩くこと。

危険な場所もあるので決められた場所を歩きましょう。

ゴミは必ず持ち帰ること。

さわがない、はしゃがないこと。

まわりにはふだんのくらしをしている人がいます。迷わくにならないようにしましょう。

食べながら出がけないこと。

ガム、キャンディーなどを食べながら出がけないようにしましょう。

写真さつえいは許可をとること。

写真をとってもよいのか、フラッシュを使用してもよいのか、大人の人にききましょう。

もっとくわしく知りたい人は

長崎市世界遺産室の

ホームページを見たり、

学校の図書室や、

市の図書館などで調べてみよう!

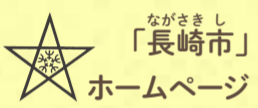


ながさきし
せかいいさんしつ
世界遺産室



発行日：令和5年1月
編集・発行：長崎市世界遺産室
住所：〒850-8685 長崎市魚の町4-1 14階

tel. 095-829-1260



「長崎市」
ホームページ



「明治日本の
産業革命遺産」
ホームページ



「長崎と天草地方の
潜伏キリシタン
関連遺産」
ホームページ

世界文化遺産

長崎の2つの世界遺産について学ぼう!!

明治日本の 産業革命遺産

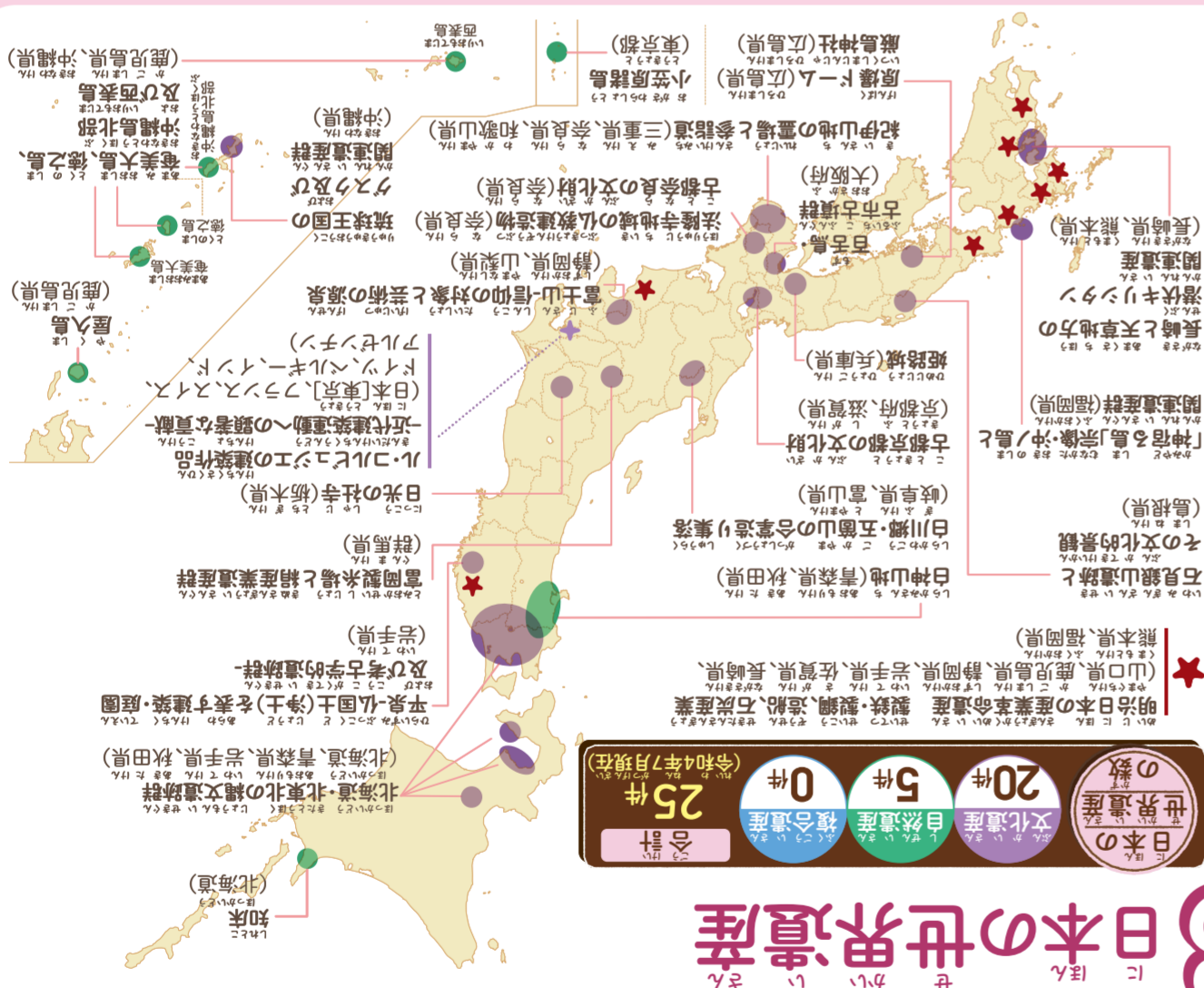
製鉄・製鋼、造船、石炭産業



グラバーさん



長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産



世界遺産は形があるものですが、形がなく、形がなくなっても「世界のため」として残すべきものがあります。それらをコナス口は、無形文化遺産とコナス口記憶遺産として守っています。

その国で伝統的な文化として認められているもの。文化や歴史に大きな影響を与えた本などの記録をコナス口記憶遺産

大事に守っていかないといけないね...

世界遺産は形があるものですが、形がなく、形がなくなっても「世界のため」として残すべきものがあります。それらをコナス口は、無形文化遺産とコナス口記憶遺産として守っています。

その国で伝統的な文化として認められているもの。文化や歴史に大きな影響を与えた本などの記録をコナス口記憶遺産

大事に守っていかないといけないね...

世界遺産は形があるものですが、形がなく、形がなくなっても「世界のため」として残すべきものがあります。それらをコナス口は、無形文化遺産とコナス口記憶遺産として守っています。

その国で伝統的な文化として認められているもの。文化や歴史に大きな影響を与えた本などの記録をコナス口記憶遺産

大事に守っていかないといけないね...

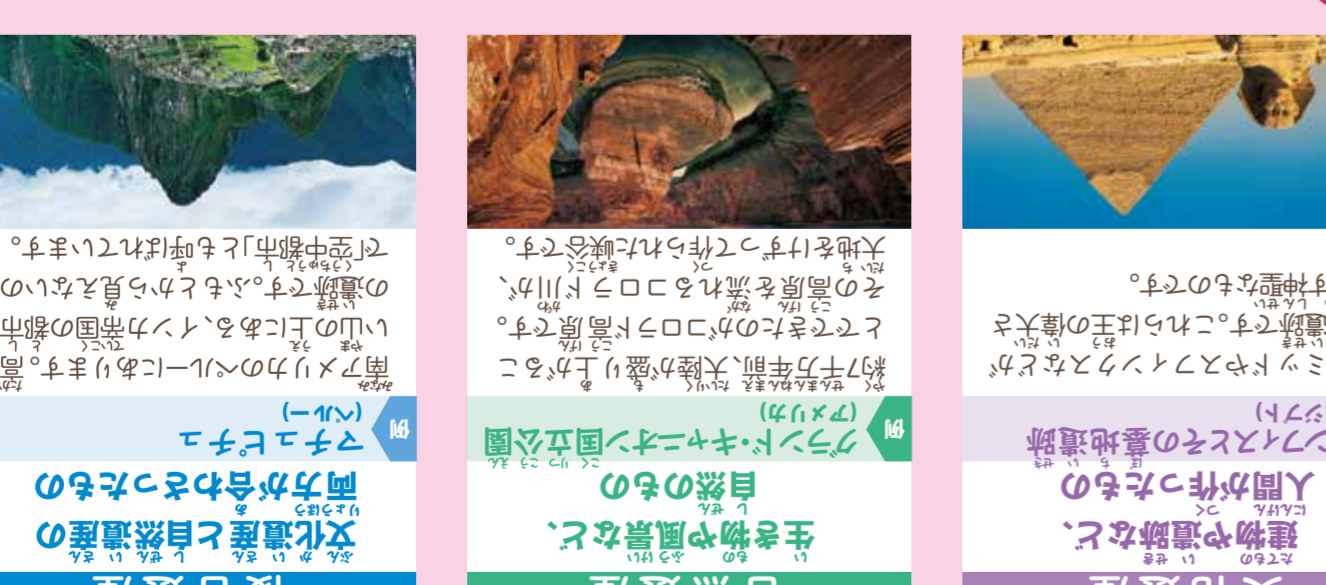
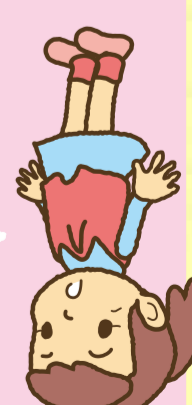
世界遺産の考え方

- 世界遺産を持つ国は世界遺産を守らなければならないことが大切である
- 世界遺産の価値をたくさんの人に教えたり広めたりしていくことが必要である
- 世界遺産とともに生活していくことが必要である



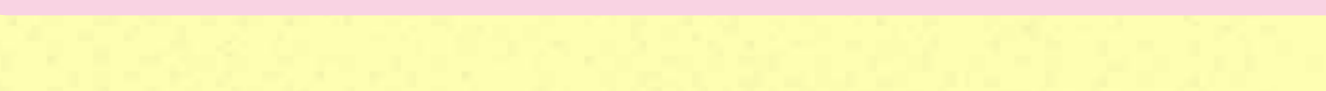
誕生したの? どうして世界遺産が

エジプトのナイル川でアメンホテプ3世の時代に、ピラミッドの建設が始まったときに、ピラミッドが完成した。アメンホテプ3世の遺跡が水の底に沈んでしまふことになりました。そこでコナス口が遺跡を守ろうと呼びかけ、多くの国が資金や技術者を出して、跡全体を安全な場所に移動させました。このことがきっかけとなり、1972年に世界遺産の考え方が生まれました。私たちは世界遺産を過去のものとして考えるのではなく、今まさに生きて意味をもつ遺産として残していかなければなりません。



世界遺産ってどんな種類があるの?

- 文化遺産: 建築物や遺跡など、人間が作ったもの
- 自然遺産: 生き物や風景など、自然のもの
- 複合遺産: 文化遺産と自然遺産の両方が含まれたもの





「明治日本の産業革命遺産」は、日本がヨーロッパ以外ではじめて、産業革命に成功した世界的にすごいできごととして、世界文化遺産に登録されました。
 そのできごとを日本中(8つの県、11の市の)23個の建物などの構成資産で証明しています。
 構成資産とは…「いろいろな資産＝たからものを世界遺産にふさわしい共通の価値でまとめているもの」のこと。



旧グラバー住宅

1863年に建てられた、日本に残るもっとも古い木造の洋館で、グラバーのすまいとしてだけでなく、交流の場所として使われました。



小菅修船場跡

1869年にグラバーと薩摩藩によって作られた、船を修理するための施設です。蒸気機関を使って海から陸上へ船を引き上げていました。



船をのせる台の形がそろばんに似ていたからソロバン Dock と呼んでいる人もいます。



高島炭坑

明治になると蒸気船の燃料など、たくさんの石炭が必要となったことから、1869年、グラバーと佐賀藩が協力して、日本ではじめて蒸気機関を使った炭坑を作りました。



端島炭坑

端島炭坑は、明治の中頃から、炭坑の島として開発されました。大正以降は高層住宅が次々と建てられ、もっとも多いときには小さい島の中に約5,300もの人が島に住んでいましたが、1974年に石炭を掘るのをやめました。今では無人となっています。島の見た目が軍艦ににていることから、「軍艦島」とも呼ばれています。



長崎造船所

日本の近代化を支えた日本で最初の本格的な洋式工場です。1857年、江戸幕府は船を修理する工場を長崎に作りしました。1887年、この工場を三菱が買って「三菱造船所」となりました。三菱造船所では、船の修理だけでなく、西洋の技術を取り入れた新しい船も作りしました。当時のままも残っている長崎造船所の施設を紹介します。



第三船渠(非公開)



1905年に大型船の建造や修理をするために作られた施設です。満潮の時に船を入れて扉をしめ、ポンプで水を抜いて作業をします。その排水ポンプは100年後の今も動いています。

ジャイアント・カンチレバー・クレーン(非公開)

1909年に建てられた日本に残るもっとも古い電動クレーンです。現在も工場で作られた製品を船に載せたり降ろしたりしています。



旧木型場

1898年に建てられた木型を作る工場です。木型とは製品を大量に作るための木で作った模型のようなものです。現在は長崎造船所の歴史を紹介する史料館として使われています。



占勝閣(非公開)

1904年に長崎造船所所長のすまいとして建てられた木造二階建洋館です。海外の偉い人などをもてなす場所として使われています。

まとめ

現在、日本は世界でもトップクラスの産業国家となりました。今の私たちのくらしは、外国のすぐれた技術を学び、日本の産業の発展のために知恵と工夫と努力を積み重ねてきた先人たちのおかげです。



なが さき あま く さ ち ほう せん ぶく かん れん い さん
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教が禁止されているなか、密かに信仰を続けることで生まれた新しい信仰のかたちを物語る、めずらしいものとして世界文化遺産に登録されました。
 そのできごとを2つの県、6つの市、2つの町の12個の集落などの構成資産で証明しています。



大浦天主堂

大浦天主堂は日本が海外との交流を始めたことにより、日本に来た宣教師が外国人のために建てた教会です。浦上の潜伏キリシタンが密かに来て、ブティジャン神父に信者であることを告白した「信徒発見」の場所です。宣教師とは…宗教を外国に伝え広める仕事をする人のこと。



「潜伏キリシタン」って？
 キリスト教が禁止されていた17～19世紀の日本で密かにキリスト教がもたらした信仰を続けようとした人たちのことだよ。



外海の大野集落

潜伏キリシタンたちが、表向きは仏教を信じる人や集落にある神社の神様を信じる人をよそおって、神社に自分たちの信仰の対象を密かにまつて祈りの場とすることで信仰を続けた集落です。



大野教会堂



キリスト教の禁止が解かれたあと、出津教会堂に通うことができない信者のために建てられた巡回の教会です。大野集落のキリシタンの「潜伏」が終わったことを表す代表的な建物です。

大野神社



潜伏キリシタンが、表向きは大野神社の神様を信じる人となつて密かに自分たちの信仰を続けました。

門神社



いろいろな神様がまつられており、潜伏キリシタンはそこに自分の信仰対象を重ねてまつったと伝えられています。

辻神社



もともとは「山の神」をまつた神社で、潜伏キリシタンが自分の信仰対象を重ねていました。

外海の出津集落

潜伏キリシタンたちが自分たちの信仰を隠しながらキリスト教由来の聖画像を密かにおがみ、宗教の教えなどをよりどころとして信仰を続けた集落です。

出津教会堂

キリスト教の禁止が解かれたあと、集落の中心の高谷に建てられた教会堂です。出津集落のキリシタンの「潜伏」が終わったことを表す代表的な建物です。



旧出津救助院

キリスト教の禁止が解かれたあと、ド・ロ神父が建てた救助院です。元々は潜伏キリシタンの取調べをしていた代官所があった所です。



ド・ロ神父のおもな活動

- 働く場所(出津救助院)を作り、西洋の道具を使った仕事を教えました。
- 建物の建て方や壁の作り方に西洋の技術を取り入れました。
- 港や道路を使いやすくして、他の地域と行き来しやすくなりました。
- 出津教会堂や大野教会堂などを建てました。



教会見学のマナー

皆が気持ちよく過ごすために必ず守ってね！

- 教会の中では大きな声でのおしゃべりは禁止です。誰もいないときでもさわがずに、静かにしましょう。
- ミサなどが行われているときは入らないようにしましょう。
- 教会の中で食べ物を食べたり、飲み物を飲まないようにしましょう。
- 教会の中にはいろいろなものがあります。むやみにさわらないようにしましょう。
- 教会の中で写真を撮らないようにしましょう。心の目で見て自分の中に残すようにしましょう。



まとめ

長崎ではわたしたちの先祖の努力によって、キリスト教の歴史を物語るものが大切に守られてきました。それらは信者たちが苦しみながらも信仰を守りついできたあかしであり、これからも大切に残していかなければならない「たからもの」です。

